

校長だより

平成22年11月17日(水)

沖縄県立読谷高等学校

校長 與那覇 健勇

～ 60周年記念式典・祝賀会を終えて ～

「祝賀会での御馳走の握り寿司が食べきれずに残るくらいのもてなしができるのは読高が初めてだ。良かった」比嘉隆期成会長の言葉です。

さらに、「職員・生徒・PTA みんな良くやっていた。大雨の中ずぶぬれになりながら駐車場の係りの先生、本当によくやっていた」と。

2008年3月の第1回記念事業準備懇話会から式典の日まで2年と7カ月。筆舌に語りつくせぬ程の労力と関わった方々の惜しまぬ協力のお陰で60周年記念式典・祝賀会がこれ以上ない形で成功裏に終えることができた。感無量とはこのことだろう。心から感謝したい。

11月13日(土)生徒中心の午前の式典。そして仲村守和先生の記念講演「意志あるところ必ず道は開ける」の演題で読谷村の偉人たちに学ぶというお話をいただいた。「読み高生はダイヤモンドの原石である」の産みの親で県教育長時代は「凡事徹底」をかかげられた本校16期卒で50年後は沖縄県の偉人として語り継がれる人となろう。

午後の式典では諸見里明県教育庁県立学校教育課長や石嶺傳實村長をはじめ、多数の本校出身者である参議院議員山内徳信、糸数慶子。県議会議員當山眞市、前島明男、中川京貴、仲宗根悟等大物と言われる方々のご列席を賜り読高のパワーの源泉を思い知らされた。

祝賀会での又吉純子さんの司会はもとより、式典から祝賀会へ移る時のスピーディな会場設営等PTAのチームワークの良さが際立った。ソフトドリンクは沖縄コカコーラからの寄贈でありがたい。

余興の圧巻は神里教諭率いる一座の糸乱れぬ芸術の極み。静と動が織りなす見事な舞。これまでの和やかな空気が一変。会場全員の呼吸と時間が止まった。注がれた視線の焦点は8人の舞姫ならぬ舞カールおじさん。拍手大喝さい。舞った8人には即校長の特別賞与を決定。

周年事業の是非はともかく、周年事業でないと購入できないマイクロバス等、教育環境の充実・整備のためには事業は必要である。読高のさらなる発展を願う気持ちが一つになって「天の時、地の利、人の和」をもって、10年ごとに一体感・連帯感・幸福感を感じる記念式典・祝賀会が催されることを願う。今回はまさにそうであった。すべてに感謝。

